



# 研究発表抄録

日本学校教育学会・日本グローバル教育学会  
合同研究大会

日本学校教育学会 第28回全国大会  
日本グローバル教育学会 第21回全国大会

期日:2013年8月3日(土)、8月4日(日)

会場:鳴門教育大学

後援 徳島県教育委員会, 鳴門市教育委員会, 鳴門社会科教育学会  
日本グローバル教育学会・日本学校教育学会合同大会の開催

西村公孝  
(合同大会実行委員長・日本グローバル教育学会副会長)

日本グローバル教育学会（第 21 回大会）・日本学校教育学会（第 28 回大会）合同大会に全国各地から多数の先生方にご参加いただき、日本のグローバル研究・実践に熱い渦を巻き込んでいただけることを心から感謝申し上げます。

本大会では昨年度の同志社大学での課題を引き継ぎ、「グローバル時代の学校教育の方向を考えるー理論と実践の往還を踏まえてー」を大会テーマ（シンポジウムの課題）といたしました。これまで日本グローバル教育学会が探究してきた「グローバル教育の理論」と日本学校教育学会が取り組まれている「グローバル化に対応した学校教育の実践的課題」について、コラボすることにより新たな地平が拓かれるものと期待しています。

徳島県は、明石海峡大橋と大鳴門橋により、淡路島経由で関西圏に近く、また阿波おどり空港を利用すれば東京圏にも時間的な距離は近い、恵まれた環境にある世界文化発信県です。何といっても 8 月に開催される阿波踊りは、全国から 200 万人近くが徳島に集まり、踊りに熱中し乱舞の昼夜の祭りが繰り広げられます。

本大会は、徳島県教育委員会・鳴門市市教育委員会・鳴門教育学会の全面的なご支援をいただき、全国の研究者と実践者が、グローバル化に対応した人材育成をどのように学校教育として取り組むべきか、その理論と実践の往還を考える新たな出発としての研究・実践を考える機会となりました。合同大会の企画を提案していただいた日本学校教育学会長の多田孝志先生に感謝するとともに、学会員の皆様及び参加者の皆様に感謝申し上げます。

## 合同大会の抄録によせて

多田孝志  
(日本学校教育学会会長・日本グローバル教育学会常任理事)

20 世紀を細分化の時代と呼称すれば、21 世紀は統合の時代と位置付けられるでしょう。グローバル時代の教育の使命は、さまざまな感性・理性、情報、体験などを前向きに捉え、対立や異見を生かし、新たな解決策や叡智を共創することできる人間を育成することにあるでしょう。

日本学校教育学会は 2012 年度、武蔵大学を会場に「グローバル時代における学校教育の役割と課題」を大会テーマとし、持続可能な開発のための教育、学習方法改革、教員養成の 3 つのテーマを設定し、シンポジウムをなし、さらに課題研究として「グローバル時代における生きる力の探究」のテーマで報告と討議を行いました。この大会での論議は、グローバル時代の学校教育への認識を深める一方、グローバル時代の陰への対応、市民育成、教師の新たな役割等々、さらに探究せねばならぬ課題が多々あることに気づく契機ともなりました。

生命体としての地球、地球社会の危機的状況を直視するとき、今回、グローバル教育の実践・理論研究の先達が所属するグローバル教育学会と日本学校教育学会が合同で大会を開くこのの意義はきわめて大きいものがあります。大会の各所で多様な視点、立場を結集した論議がなされ、「知」を超えた「智」が共創されることを期待します。

合同大会に賛同くださった今谷順重会長をはじめとする日本グローバル教育学会の会員の皆様、大会実行委員長西村公孝先生、鳴門教育大学の関係者の方々に深甚なる謝意を表します。

# 大会テーマ

## グローバル社会時代の学校教育の方向を考える

### —理論と実践の往還を踏まえて—

#### 1. 日程

(1) 8月3日(土)

9:00      9:30                                  11:30      12:30      13:40                  14:40                                  17:00      17:30  
18:20      20:00

受付	自由研究発表	昼食 理事会	総会	基調講 演	シンポジウム	総括 講演	移動	懇親会
----	--------	-----------	----	----------	--------	----------	----	-----

(2) 8月4日(日)

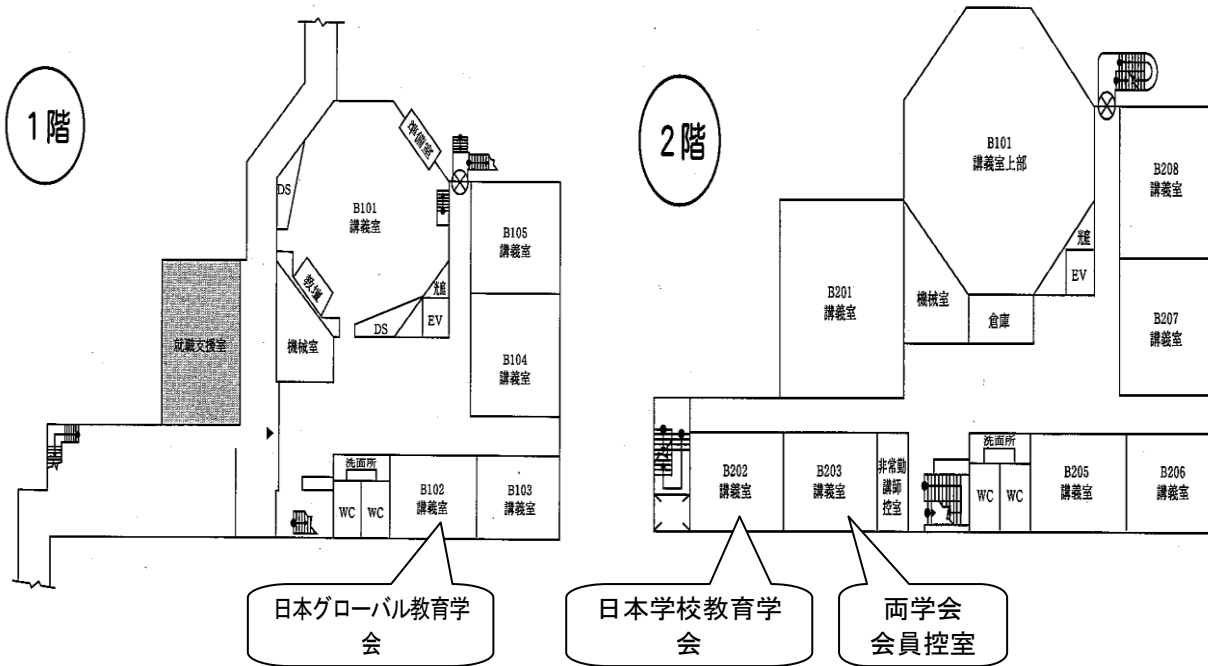
9:00      9:30                                  11:30      12:30                                  15:00                                  16:30

受付	自由研究発表	昼食	課題研究	ラウン ドテー ブル	
----	--------	----	------	------------------	--

**鳴門教育大学の構内案内図**



## 講義棟案内図および会場配置



**会員控室（両学会）のご案内**  
 場所 講義棟B203教室  
 利用可能日時 8月3日（土）～8月4日（日）9:00～13:00

**両学会事務局**  
 日本学校教育学会 講義棟B202教室  
 8月3日（土）～8月4日（日）9:00～13:00  
 日本グローバル教育学会 講義棟B102教室  
 8月3日（土）9:00～13:00

## 会 場 配 置 一 覧

8 月 3 日 (土)	自由研究発表 (9:30~11:30)	第1分科会	講義棟：B103教室	第5分科会	講義棟：B206教室	
		第2分科会	講義棟：B104教室	第6分科会	講義棟：B207教室	
		第3分科会	講義棟：B105教室	第7分科会	講義棟：B208教室	
		第4分科会	講義棟：B205教室			
	理 事 会 (11:30~ 12:30)	日本グローバル教育学会		講義棟：B102教室		
		日本学校教育学会		人文棟：6階A3会議室		
	総 会 (12:30~ 13:20)	日本グローバル教育学会		講義棟：B207教室		
		日本学校教育学会		講 堂		
	基調講演・シンポジウム・総括講演 (13:40~17:30)				講 堂	
	懇親会 (18:20~20:00)				ルネッサンスリゾートナルト	
8 月 4 日 (日)	自由研究発表 (9:30~11:30)	第8分科会	講義棟：B102教室	第10分科会	講義棟：B104教室	
		第9分科会	講義棟：B103教室	第11分科会	講義棟：B105教室	
	課題研究 ( 12:30 ~ 15:00)	〈生きる力〉の育成を支援する 教育行政・学校経営の在り方		講義棟：B207教室		
	ラウンドテーブ ル (15:00~ 16:30)	震災と学校		講義棟：B104教室		
		実践的研究の課題と方法		講義棟：B105教室		

基調講演・シンポジウム・総括講演 13:40～17:30 場所：講堂

■ 基調講演 13:40～14:40

「グローバル化の二側面と学校教育の実践的主要課題」

講師 若井 彌一

(仙台大学副学長，日本学校教育学会顧問)

〈講演者紹介〉

若井彌一 [ワカイヤイチ] 新潟県生まれ。東北大学大学院博士課程（教育行政学専攻）を中退、同大学院教育学部教育行政学講座助手に就任。その後、仙台大学講師・助教授、上越教育大学助教授を経て、同大学教授。専門（担当）は、教育法学、教育行政学。上越教育大学学長に就任、2013年3月任期満了にて退任

現在 仙台大学大学院教授 大学院研究科長 日本学校教育学会前会長、教育法規、教育行政、教師教育・教員養成に関する著書多数、「若井彌一著作集（全5巻）」（協同出版）を逐次刊行中

○講演内容

- 1 事実または現象としてのグローバル化の進展
- 2 知らない・嫌いでは済まされないグローバル化への対応
- 3 学校教育での取組事例 ～ その事例から学ぶこと
- 4 学校教育での実践的諸課題
  - (1) 国際的主要課題への自主的・自発的対応能力の育成
  - (2) 国際的に活躍できる人材育成の重点的取組
- 5 大学における教員養成への期待

■日本グローバル教育学会・日本学校教育学会合同シンポジウム 14:40~17:00

「グローバル社会時代の学校教育の方向性を考える  
—理論と実践の往還を踏まえて—

司会 西村 公孝 (鳴門教育大学)  
多田 孝志 (目白大学)

《趣旨》

グローバル教育学会は昨年の第20回大会では、「グローバル教育の実践的地平を探る」を大会テーマとして、創設者である新島襄の国際主義をうたう同志社大学(同志社女子大学今出川キャンパス)において記念大会を開催することができました。1993年に日本グローバル教育研究会が設立されて以来、1997年の学会移行大会を経て記念の第20回大会を終え、学会も成人期に入り研究会発足時にはなじみ深い用語とはいえなかった「グローバル教育」は、グローバル化に対応した人材育成が緊要な学校教育課題に挙げられ、その教育用語としての価値は一層注目され始めています。

日本学校教育学会でも昨年の第28回武蔵大学大会で「グローバル時代の学校教育」をテーマに掲げ、世界の教育動向、教師教育、学習方法など多様な視点からの論議を行ってきました。

そこで、本年度の鳴門大会では、両学会の大会テーマの趣旨を継承しつつ、日本グローバル教育学会と日本学校教育学会とが合同大会を企画し、時代の流れを踏まえてグローバル教育関連の理念追求と教育課程や学習課題を探る実践研究の2つの方向について、「学校教育」をキーワードに探求したいと思います。大会テーマを「グローバル社会時代の学校教育の方向性を考える」に設定し、グローバル社会時代の教育課題について、理論を理念的に追求するとともに学校教育にどのように実践として定着させるか、その往還を踏まえて方向性を探る大会にしたいと思います。

日本グローバル教育学会の第21回大会、日本学校教育学会第29回大会では、両学会の合同により新たな歴史の一步を築く機会を提供したいと思います。

○提案者

日本グローバル教育学会シンポジスト

研究者の立場から 鴛原 進 (愛媛大学)

実践者の立場から 岡田 要 (鳴門教育大学[院生], 元岡崎市立城南小学校長)

日本学校教育学会シンポジスト

研究者の立場から 和井田 清司 (武蔵大学)

実践者の立場から 澤井 史郎 (福島県いわき市立勿来第二中学校)

■ 総括講演 17:00~17:30

講師 今谷 順重 (帝塚山大学, 日本グローバル教育学会会長)

■懇 親 会 18:20~20:00

**会場：ホテルネッサンスリゾートナルト**  
〒772-0053 徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛 16-45  
TEL:088-687-2580(代表)

夏季の繁忙期のため、ホテルには駐車スペースがありません。大学からのマイクロバスを利用してください。

往路：大学発→ホテル 復路：ホテル発→大学→鳴門駅→徳島駅  
(28人乗りのバス2台を予定)





## ■ 課題研究

12:30～14:50 場所：講義棟 B207

### 〈生きる力〉の育成を支援する教育行政・学校経営の在り方

コーディネーター 古賀 一博（広島大学）

#### 〔報告者〕

- ・ 阪根 健二（鳴門教育大学） ～学校の危機管理の視点から
- ・ 廣瀬 裕一（上越教育大学） ～教育行政の視点から
- ・ 入部 勝治（八女市立矢部中学校） ～学校経営の視点から

#### 〔司会者〕

- ・ 古賀 一博（広島大学）
- ・ 佐々木幸寿（東京学芸大学）

#### 【趣旨】

日本学校教育学会では、本年を含めてこの三カ年間、「生きる力」を主題とした課題研究を設定し、1年目は「いま、あらためて〈生きる力〉を問う」というテーマの下、知識基盤社会や少子高齢社会の到来さらには東日本大震災といった未曾有の災害に直面する中で、どのように生きる力の育成に取り組むべきであるのか検討を加えた。2年目は、国際競争の加速化の一方で、異文化・文明との共存や国際協力が同時に求められる社会状況下での生きる力の育成について、「グローバル化時代における〈生きる力〉の探究」というテーマの下で検討を行った。

本年は、これらの取り組みを受けて、その最終年度として「〈生きる力〉の育成を支援する教育行政・学校経営の在り方」というテーマの下、設定主題への接近を試みたい。生きる力の育成に際して、教育活動を直接担当する個々の教師の力に待つところが大きいことは言うまでもないところである。しかしながら、それら個々の教師の力量にのみ頼っているのは、おのずと限界は見てくる。

では、個々の教師の教育活動を様々な側面から支援する責務を負う教育行政・学校経営関係者は、前二カ年で指摘されてきた「知識基盤社会、少子高齢社会、グローバル社会」といった現代社会の中、そして、昨今の天津市のいじめ事件・大阪市の体罰問題といった学校の危機的な現象の中で、どのような取り組みを展開して、この生きる力の育成に向けた支援を行うべきであるのか。それぞれのお立場からのご意見をいただきながら、生きる力の育成に向けた教育行政・学校経営のあるべき姿を探りたい。

■ラウンドテーブル 15:00～16:30  
ラウンドテーブル① 場所：講義棟 B104

震災と学校

－東日本大震災と学校経営改善－

コーディネーター 佐々木幸寿（東京学芸大学）

[報告者]

- ・林 明煌（台湾・国立嘉義大学）
- ・澤井 史郎（福島県いわき市立勿来第二中学校）
- ・佐々木幸寿（東京学芸大学）

[司会者]

- ・末松 裕基（東京学芸大学）

趣旨

2011年3月に発生した東日本大震災では多くの学校が被災し、また児童生徒や教師、保護者、地域住民等に多く犠牲があった。震災後、学校においては、このような悲惨な経験を踏まえて、従来の学校教育の考え方や枠組みの捉え直しが進められている。

東日本大震災の教訓を踏まえて、どのような人間像を想定し、どのような資質を重視した教育を行わねばならないのかという視点から、被災地の学校では、防災教育、ボランティア教育、地域教育、道徳教育などの領域において学校教育の見直しが進められている。

また、今回の震災は、全国的な学校経営の改善を促す動きにつながっているだけでなく、諸外国の研究者たちも、自国の防災教育や学校経営改善のための知見を求めて調査研究を進めており、独自性の高い貴重な視点を提供している。

本シンポジウムにおいては、東日本大震災において深刻な震災被害を受けた学校の現状を踏まえながら、それを教訓として、どのように学校教育の改善を図るべきなのかについて、外国人研究者の視点を中心に据えて、我が国の震災後の学校教育の在り方について追究しようとするものである。

## ■ラウンドテーブル② 場所：講義棟 B105

### 実践的研究の課題と方法

コーディネーター 黒羽 正見(群馬大学)

#### [報告者]

- ・ 稲垣 応顕 (上越教育大学)
- ・ 小林 淳一 (金沢学院短期大学)
- ・ 堀井 啓幸 (山梨県立大学)

#### 趣旨

今日の多忙な学校現場から、「部外者（よそ者）を快く入校させて、協力する時間などない。そんなものは、厄介の何物でもない」という手厳しい声が耳に入る。また苦勞の末、研究結果として、断片的に既知の事柄（現象）を網羅的に関係づけて一つのまとまりとしての知見を導出しても、査読者からは、「その事実はあなたの都合の良い部分を切り取っただけではないですか。客観性はどこにあるのですか。」と指摘されることも多々ある。ここに実践を研究すること、さらに研究成果を共有することの難しさがある。

本ラウンドテーブルにおいては、多忙な学校現場で教育実践を「研究」して、さらに「論文」にする実践的研究の方法論的考察について議論する。とくに、どのようにして学校現場の協力を得ればよいか、そして、実践の現実を実証段階に留めるのではなく、具体的な課題解決をめざすには、どのような手続きをとればよいかについて追究していきたい。

- 主な予想論点
- ・ 教育研究と教育実践研究の違いは
  - ・ 教育実践研究と学校現場との関係は
  - ・ 実践の現実を研究する方法としては

上越教育大学大学院 稲垣 応顕

筆者は、“現場で役に立たない研究は、意味をなさない”、ただし、“理論の無い教育実践もあり得ない”と考えている。また、理論は実践の積み重ねの上に成り立つため抽象的であるが、教育を支える道標になる。ただし、学校教育現場で常に求められるのは、「だから、どうするのか」という具体論である。そこで、真に役立つ教育実践学の研究方法論をフロアーの皆さんと共有したいと願っている。

金沢学院短期大学 小林 淳一

教育現場での課題やニーズの探究には、フィールドワークが不可欠である。しかし調査者は組織に自然に溶け込み、周囲に影響を及ぼさず観察することが難しい。そのため、調査も査読時も否定的に捉えられることがある。本報告はこうした問題意識に鑑み、学校でのフィールドワークの在り方を、実践的研究者の視点で検討する。

山梨県立大学 堀井 啓幸

多忙な学校において、校内研修など学びあいの深まりがなければ組織の協働性が保てず個業的技術論に陥る。また、教育実践研究においては学校改善の当事者性が問われるようになり、規範的知を乗り越える研究が求められている。その点、学校現場でも実践研究においても、全体構造を踏まえた継続的なアクションリサーチが求められる。

- ・昼食：土曜日・日曜日ともに、学内食堂が営業していますのでご利用ください。
- ・懇親会：ホテルルネッサンスリゾートナルトで行います。夏季の繁忙期のため、ホテルには駐車スペースがありません。大学からのマイクロバスを利用してください。  
往路：大学発→ホテル 復路：ホテル発→大学→鳴門駅→徳島駅  
(28人乗りのバス2台を予定)

### 鳴門教育大学までのアクセス



#### (1) 高速バス

- ① 大阪・神戸方面からお越しの場合は「高速鳴門」で下車。タクシーで約10分。  
「高速鳴門」から徒歩5分の「小鳴門橋」から路線バス(下記)を利用することもできます。
- ② 広島・岡山・高松方面からお越しの場合は「鳴門インター北口」で下車。タクシーで約20分。

#### (2) 航空機(羽田空港・福岡空港から)

徳島空港からは、徳島駅に向かう場合は徳島駅行きリムジンバスを利用してください。  
鳴門方面に向かう場合は、路線バス「鳴門公園」行き(9:34から16:34まで1時間おきに出発)に乗車すると、「鳴門駅前」や「小鳴門橋」に向かうことができますが、大学を経由しません。

#### (3) JRで鳴門駅まで

徳島駅から「鳴門線」で約40分。高松駅からは「特急うずしお」を利用すると徳島駅が終着です。  
高松方面から鳴門駅に向かう場合は、途中の池谷駅あるいは勝瑞駅にて「鳴門線」に乗り換えてください。

#### (4) 大学までの路線バス(土日祝ダイヤ)

《ゆき》徳島駅→鳴門駅→小鳴門橋→鳴門教育大学

徳島駅前	鳴門駅前	小鳴門橋	鳴門教育大学
7:40	8:13	8:18	8:23
8:30	9:03	9:08	9:13
10:20	10:53	10:58	11:03

《かえり》鳴門教育大学→小鳴門橋→鳴門駅→徳島駅

鳴門教育大学	小鳴門橋	鳴門駅前	徳島駅前
13:00	13:07	13:11	(鳴門止)
15:08	15:15	15:19	15:54
17:38	17:45	17:49	18:24

#### (5) タクシー

「高速鳴門」「鳴門駅前」「徳島空港」などにはタクシーが常駐しておりますが、「鳴門教育大学」付近、「鳴門インター北口」では流しのタクシーはつかまりません。電話で呼び出してください。

鳴門第一タクシー	(088) 685-5555
鳴門観光タクシー	(088) 685-9999